

Page 14 - Chapter 1

Sentence 1

很早就学会了算术，七岁时就能解三次方程。有一次，他甚至被邀请参加电视上的神童秀。
幼いころから算数を覚え、歳で三次方程式を解いていた。ある時は、神童番組にテレビ出演するよう誘われたこともあった。

Sentence 2

这发生在全家从波罗的海迁到亚得里亚海之后。父亲是语言学博士，收到了去印度或意大利教外国人俄语的邀请。
これは家族がバルト海からアドリア海沿岸に移った後のことだった。文献学博士である父親は、インドかイタリアで外国人にロシア語を教える仕事を打診された。

Sentence 3

印度人提供的是带花园的庄园、仆人和舒适的生活。意大利人则通知说，俄语学院院长将住在一间单室公寓里，但是在都灵。一个拉丁学者会选择什么？
インド人は庭付きの邸宅、使用人、快適さで誘った。イタリア人は、ロシア語学院長がワンルームマンションで待っているが、場所はトリノだと知らせた。ラテン語学者はどちらを選ぶか？

Sentence 4

总之， 带着塞万提斯的男孩 也就是帕维尔 没有被带到那狭小的环境中，被留给了祖母照顾，直到生活安顿下来。

要するに、「セルバンテスと一緒に少年」つまりパーヴェル は窮屈な環境には連れて行かれず、生活が落ち着くまで祖母のもとに残された。

Sentence 5

她住在涅瓦大街上一个三十平方米的房间里，周围是公共公寓的炼狱。

彼女はネフスキー大通りの 平方メートルの部屋に住んでいて、共同アパートという煉獄に囲まれていた。

Sentence 6

由于围困时期养成的习惯，她制作了大量的罐头，把架子上堆满了罐子。

封鎖時代の習慣から、恐ろしい量の保存食を作り、棚を瓶で埋め尽くしていた。

Sentence 7

家人没有告诉帕维尔他们要少带一个人出行。当他们几乎在最后一刻宣布时，四岁的他无法接受这个消息，开始砸那些 背叛之罐 。

家族はパーヴェルに、人数を減らして飛ぶことを伝えなかった。ほぼ土壇場で告げられた時、歳の彼はこの知らせを消化できず、裏切りの瓶を割り始めた。

Sentence 8

祖母惊慌失措，向父母抱怨：这个男孩任性又难以管教。

祖母はパニックになり、両親に文句を言った：この子はわがままで手に負えない、と。

Sentence 9

半夜里，他会按下电视按钮，盯着屏幕。电视上播放的是在大会宫举行的会议，和许多孩子一样，他被那些晦涩却有趣的词语所吸引： 主席团 、 候选人 、 改革 、 公开性 、 合作社 。

夜中にテレビのボタンを押して画面を見つめていた。大会宮殿での会議を放映しており、多くの子供たちと同様、彼は理解できないが興味深い言葉の流れに魅了された：「幹部会」「候補者」「ペレストロイカ」「グラスノスチ」「協同組合」。

Sentence 10

他对自己最早的记忆是坐在地毯上用积木搭塔。第二个记忆是把多米诺骨牌一个个叠起来，尽可能地往高处叠，直到它倒塌。

自分自身についての最初の記憶は、カーペットの上に座ってブロックで塔を作っていたこと。
つ目は、ドミノを一つずつ重ねて、できるだけ高く積み上げようとして、塔が崩れ落ちるまで続けたこと。

Sentence 11

狂热的创造欲望最初几乎人人都有，只是我在成长过程中保留了它，没有被消费社会的伪价值观所取代，这段话在六月一个凌晨三点半出现在屏幕上。

「創造への狂気じみた衝動は、最初はほぼ全員に存在する。ただ、私の場合は成長しても残り続け、消費社会の疑似価値観に取って代わられなかっただけだ」この一節が 月のある朝、時半に画面に表示された。

Sentence 12

也许是因为我保持头脑清醒：不看电视，不读报纸，不盲信权威的意见。

「おそらく、頭をクリアに保っていたからだろう：テレビを見ず、新聞を読まず、権威者の意見を鵜呑みにしなかった」

Sentence 13

我们连续通信了八个小时，中间被与编辑（作者）的对话和与开发人员（主人公）的咨询打断。杜罗夫思考后补充道： 或者这些不是原因，而是结果。好了，我要走了，我今天还没吃东西呢。
私たち は 時間ぶっ通しでやり取りを続け、編集者との会話（著者）と開発者との相談（主人公）で中断した。考えた後、ドゥーロフは付け加えた：「あるいは、これらは原因ではなく結果かもしぬれない。じゃあ、行くよ、今日はまだ何も食べていないんだ」

Sentence 14

苏联晚期的幼儿园与现代幼儿园没什么两样 只要你户口在某个区，你那碗粗面粥就在那里。
ソ連末期の幼稚園は現代のものとあまり変わらなかった その地区に登録されていれば、セモリナ粥の皿はそこにある。

Sentence 15

在阴沉的早晨，男孩和老妇人走出楼道，躲避着风，等待无轨电车。
薄暗い朝、少年と年配の女性は建物の入り口から出て、風から目を隠しながらトロリーバスを待っていた。

Sentence 16

他们抓着扶手爬上车，像登山者攀绳一样，花费数小时才能到达城郊。杜罗夫就这样开始痛恨官僚主义。

手すりにつかまって、登山家がロープを登るように乗り込み、郊外に着くまでに何時間もの人生を費やした。こうしてドゥーロフは官僚主義を憎むようになった。

Sentence 17

几个月后，母亲飞来把他接走了。在意大利学校，孩子们的教育方式不同，没有强迫。
数ヶ月後、母親が飛んできて彼を連れて行った。イタリアの学校では子供たちは違った方法で教えられ、強制はなかった。

Sentence 18

就在那时，老师们发现他的哥哥尼古拉是个神童，电视台工作人员招募他参加电视节目。
そのとき、教師たちは兄のニコライを神童だと認識し、テレビ局が番組に出演させた。

Sentence 19

帕维尔没有被邀请去任何地方。但首先，他从哥哥的博学中受益。
パーゲルはどこにも招かれなかった。しかします、彼は兄の博識から恩恵を受けていた。

Sentence 20

父母把他们放上床后，关灯离开，之后哥哥就会给弟弟复述当天读到的最有趣的内容：星座、对数、物种起源等等。

両親は彼らを寝かしつけると明かりを消して去り、その後、兄はその日読んだ最も興味深いことを弟に語って聞かせた：星座、対数、種の起源など。

Sentence 21

他们当然也会打架和互相生气，但哥哥并不吝啬，愿意分享他的知识宝库。

もちろん、喧嘩したり拗ねたりしたが、兄は出し惜しみせず知識を共有した。

Sentence 22

其次，弟弟也有自己独特的天赋。当客人来访时，他会拿起铅笔和纸，在厨房的谈话中画下来客。そして第二に、弟は弟なりの才能があった。客が来ると、鉛筆と紙を取り、キッチンでの議論の間に訪問者を描いた。

Sentence 23

在被画者要告别之前，会给他展示这幅画 画像的相似度常常令人惊叹；当然，要考虑到作者只是个一年级小学生。

被写体が帰ろうとする前に絵を見せると、似ていることに驚かれることが多かった；もちろん、作者が小学一年生だということを考えれば。

Sentence 24

回到祖国很艰难。帕维尔进入了一所不错的学校，在那里他一点也不痛苦，直到有一天他意识到自己的英语比那个代替生病的英语老师的女孩还要好。

祖国への帰還は困難だった。パーヴェルはまともな学校で待っていて、全く苦しまなかつた病気の英語教師の代わりに来た女性よりも自分の英語の方が上手だと気づくまでは。

Sentence 25

他直接对她说： 你教得不好。 类似的冲突也在他和俄语老师之间酝酿着。

彼は彼女にこう言った：「あなたは教え方が下手です」。似たような対立が、彼とロシア語教師の間でもくすぶっていた。

Sentence 26

这个学生无视等级制度，只认为重要的是那位英语老师在犯错 那为什么校长还期望他闭嘴呢？！

生徒は上下関係など気にせず、英語教師が間違いを犯しているという事実だけが重要だと考えていました なぜ校長は彼が黙ることを期待するのか？！

Sentence 27

年龄他不在乎

年齢は彼には

Translator Notes

- Page 14 continues Chapter 1 about Durov's childhood
- Nikolai Durov - Pavel's older brother, a mathematician and also a prodigy
- The family lived in Turin, Italy when the father worked at the Russian Language Institute
- Nevsky Prospekt - main avenue in St. Petersburg where grandmother lived
- Blockade reference - Siege of Leningrad (1941-1944), grandmother's habits from that era
- Perestroika and Glasnost - Gorbachev-era reform policies (1985-1991)
- Origin of species - Darwin's work, showing the brothers' intellectual interests